

宇佐見 太市 教授 略歴および主要研究業績



1. 略年譜

学 歴

- 1950年2月 愛知県一宮市にて宇佐見清三・久子の長男として出生。大正生まれの父母は共に愛知県一宮市出身で、満州・シベリアから復員した父・宇佐見清三（戦後、会社員）は、見合いで、浅井久子と結婚し、一宮市に在住。その後、父・宇佐見清三の仕事の関係で、筆者が一宮市立大志小学校二年生の秋に大阪市に転居し、大阪市立聖和小学校に転入する。[現在、満70歳の筆者の現住所は、大阪府吹田市青山台（妻・宇佐見由美の実家）だが、筆者の両親（宇佐見家と浅井家）のルーツを護持したいという筆者のわがまを、妻・宇佐見由美（大西昭男・津名の長女）が寛容の精神で許容してくれているので、本籍地は愛知県一宮市に据え置いている。ひとえに妻・由美に感謝あるのみである。ただし、菩提寺に関しては、愛知県一宮市では法事や墓参り等が遠くて不便ということで、同じ宗派の大阪市天王寺区の谷町（四天王寺前夕陽ヶ丘駅）にある約400年の歴史と伝統を誇る名刹に移動させた。これに関しても妻・由美の尽力の賜物である。（因みに、筆者の父・宇佐見清三は1991年2月に死去。母・久子は1996年4月に死去。)]
- 1962年3月 大阪市立聖和小学校卒業（12歳）

- 1965年3月 大阪市立天王寺中学校卒業 (15歳)
1968年3月 大阪府立清水谷高等学校卒業 (18歳)
1970年4月 奈良教育大学教育学部文科英語専攻 (=英語科) 入学 (20歳)
1974年3月 奈良教育大学教育学部文科英語専攻 (=英語科) 卒業 (24歳)
1974年4月 大阪教育大学大学院教育学研究科修士課程英語教育専攻英語第二講座 (英米文学) 入学 (24歳)
1976年3月 大阪教育大学大学院教育学研究科修士課程英語教育専攻英語第二講座 (英米文学) 修了 (26歳)
1976年4月 関西大学大学院文学研究科博士課程後期課程英文学専攻入学 (26歳)
1979年3月 関西大学大学院文学研究科博士課程後期課程英文学専攻所定単位取得後退学 (=満期退学) (29歳)

職歴 (大学専任教員としての職歴のみを記す。非常勤講師歴はすべて省略する)

- 1978年4月 常磐会短期大学・専任講師 (1979年3月末日まで) (28歳)
1979年4月 近畿大学教養部・専任講師 (29歳)
1983年4月 近畿大学教養部・助教授 (33歳)
1991年4月 関西大学文学部英文学科・助教授 (41歳)
1992年4月 関西大学文学部英文学科・教授 (42歳)
1994年4月 関西大学総合情報学部 (新設)・教授 (以下、すべて学内移籍)
1998年4月 関西大学文学部英語英文学科・教授
1999年4月 関西大学文学部外国語教育研究教室 (新設)・教授
2000年4月 関西大学外国語教育研究機構 (新設)・教授
2009年4月 関西大学外国語学部 (新設)・教授
2017年3月 関西大学定年退職 (67歳)
2017年4月 関西大学・名誉教授 (現在に至る)
関西大学外国語学部・特別契約教授 (現在に至る)

大学院教員資格審査

- 1999年9月 (文科省教員資格審査) 関西大学大学院文学研究科修士課程外国語教育専攻 (新設)「英語教育」M合
2001年9月 (文科省教員資格審査) 関西大学大学院外国語教育学研究科 (新設)「地域言語文化論1 (英国1)」M[⊕]、「外国語教育特殊研究6 (英語教育論)」M[⊕]
2003年9月 (学内審査) 関西大学大学院外国語教育学研究科・博士課程前期課程演習担当資格M[⊕]

2006年9月 (学内審査) 関西大学大学院外国語教育学研究科・博士課程後期課程演習担当資格D[Ⓔ]

学内行政上の主要な役職のみを記す

1994年4月 関西大学総合情報学部・学部学生相談主事(1994年9月末日まで)
1994年10月 関西大学総合情報学部・学生主任(在外研究員に専念するため、1996年3月末日まで)
2000年10月 学校法人関西大学・評議員(2008年9月末日まで)
2001年10月 関西大学外国語教育研究機構・機構長代理(2004年9月末日まで)
2004年10月 関西大学外国語教育研究機構・機構長(三選され、外国語学部創設までの2009年3月末日まで)
関西大学・大学協議会協議員(2010年9月末日まで)
2006年10月 関西大学大学院外国語教育学研究科・研究科長(2010年9月末日まで)
2009年4月 関西大学外国語学部・初代学部長(2010年9月末日まで)
2014年4月 関西大学・大学協議会協議員(2016年9月末日まで)
2015年4月 関西大学東西学術研究所・幹事(2017年3月末日まで)

日本学術会議協力学術研究団体活動ならびに主要な公的機関社会連携・学会学術賞

1996年6月 公益財団法人海堀奨学会・選考委員(現在に至る)
1997年11月 日本ジョージ・エリオット協会・理事(現在に至る)
2003年10月 日本英語コミュニケーション学会・理事(現在に至る)
2004年10月 日本ブロンテ協会・理事(現在に至る)
2006年7月 公益財団法人海堀奨学会・理事(現在に至る)
2015年3月 日本英語コミュニケーション学会・学会賞(学術賞)受賞

2. 研究業績

単著書(2点)

ディケンズと「クリスマス・ブックス」 単著 平成12年3月 関西大学出版部、四六判、206頁
実践知性としての英文学研究 単著 平成26年3月 関西大学出版部、A5判、430頁

共著書(分担執筆、7点)

ドーラ頌—『デイヴィッド・コパーフィールド』論 単著 平成4年4月 『イギリス文学評論IV』、創元社、pp.118-127.

『デイヴィッド・コパーフィールド』—増幅する自我— 単著 平成9年10月 『イギリス小説

- 入門』、創元社、pp.123-130.
- 『嵐が丘』の鑑賞のポイント 単著 平成11年7月 『ブロンテ文学のふるさと』、大阪教育図書、pp.67-68.
- 『大いなる遺産』—ヒロインの変容：虚像と実像の狭間で— 単著 平成11年9月 『ヴィクトリア朝の小説—女性と結婚—』、英宝社、pp.147-163.
- ブロンテ姉妹はわれらが救世主たりうるか 単著 平成14年3月 『外国語研究—言語・文化・教育の諸相』、ユニウス、pp.35-42. (共編著)
- 『オリヴァー・トゥイスト』—翻訳本に見るディケンズ像 単著 平成14年9月 『楽しめるイギリス文学—その栄光と現実—』、金星堂、pp.72-83. (共編著)
- 日本の英文学研究と戦争 単著 平成23年1月 『英米文学と戦争の断層』、関西大学出版部、pp.275-287.

共翻訳書(1点)

- The BNC Handbook コーパス言語学への誘い 共著 平成16年7月 ガイ・アシユトン／ルー・バーナード著、北村裕他、松柏社、翻訳箇所抽出不能

論文(35点)

- Hard Times* に関する一考察 単著 昭和52年2月 *Poiesis* 第4号、関西大学大学院英語英米文学研究会、pp.22-33.
- The American* に関する一考察 単著 昭和52年10月 『千里山文学論集』第18号、関西大学大学院文学研究科院生協議会、pp.17-32.
- Great Expectations* の謎 単著 昭和53年5月 *Poiesis* 第6号、関西大学大学院英語英米文学研究会、pp.1-10.
- Oliver Twist* における Nancy 像について 単著 昭和54年3月 『常磐会短期大学紀要』第7号、pp.19-26.
- Great Expectations* の結末考 単著 昭和54年11月 『近畿大学教養部研究紀要』第11巻第2号、pp.65-77.
- 「英語教育」考 単著 昭和55年3月 『近畿大学視聴覚教室通信』創刊号、pp.40-42.
- Oliver Twist* の謎 単著 昭和55年12月 『近畿大学教養部研究紀要』第12巻第2号、pp.107-116.
- 大学教養英語教材再考 単著 昭和56年3月 『近畿大学視聴覚教室通信』第2号、pp.17-22.
- Hard Times* の謎 単著 昭和56年3月 『近畿大学教養部研究紀要』第12巻第3号、pp.75-84.
- 『大いなる遺産』のピップ像 単著 昭和56年7月 『近畿大学教養部研究紀要』第13巻第1

- 号、pp.93-102.
- 大学英語教育展望 単著 昭和57年3月 『近畿大学視聴覚教室通信』第3号、pp.23-28.
- Hard Times*における作家の人間洞察眼 単著 昭和57年7月 『近畿大学教養部研究紀要』第14巻第1号、pp.93-101.
- 『クリスマス・キャロル』考 単著 昭和58年12月 『近畿大学教養部研究紀要』第15巻第2号、pp.17-29.
- 大学英語教育雑感 単著 昭和59年3月 『近畿大学視聴覚教室通信』第5号、pp.5-10.
- 『大いなる遺産』の人物たち 単著 昭和60年2月 『近代風土』第22号、近畿大学出版部、pp.142-153.
- 大学英語教育概観 単著 昭和60年3月 『近畿大学視聴覚教室通信』第6号、pp.5-13.
- Hard Times* 再考 単著 昭和60年12月 『近畿大学教養部研究紀要』第17巻第2号、pp.69-78.
- 大学英語教育・実感 単著 昭和61年3月 『近畿大学視聴覚教室通信』第7号、pp.33-40.
- 『懸かれた男』の意味 単著 昭和61年12月 『近畿大学教養部研究紀要』第18巻第2号、pp.19-30.
- 英語教育一言葉への拘り 単著 昭和62年2月 『近畿大学視聴覚教室通信』第8号、pp.13-19.
- E.M. フォースター『インドへの道』考 単著 昭和63年1月 『近代風土』第29号、近畿大学出版部、pp.51-70.
- 『炉端のこおろぎ』を読む 単著 昭和63年12月 『近畿大学教養部研究紀要』第20巻第2号、pp.47-55.
- いま英語教育に望むこと 単著 平成1年12月 『近畿大学視聴覚教室通信』第11号、pp.33-38.
- ディケンズの小説作法 単著 平成1年12月 『近畿大学教養部研究紀要』第21巻第2号、pp.33-40.
- 善なる人々『人生の戦い』試論 単著 平成2年12月 『近畿大学教養部研究紀要』第22巻第2号、pp.59-69.
- 活字メディアと映像メディア 単著 平成8年3月 『関西大学教職課程研究センター年報』第10号、pp.75-80.
- 外国語教育における活字メディアの意義 単著 平成9年3月 『関西大学視聴覚教育』第20号、pp.21-34.
- 関西大学総合情報学部における英語教育—Needs Analysisと教材開発— 共著 平成9年7月 『語学ラボラトリー学会第37回全国研究大会発表論文集』、pp.141-144.
- 日本におけるディケンズ『クリスマス・キャロル』の翻訳本を通して見た場合 単著 平成

- 9年12月 『英文学論集』第37号、関西大学英文学会、pp.35-63.
- 英語科教育法の現状と課題—担当者からの問題提起— 単著 平成11年3月 『関西大学教職課程研究センター年報』第13号、pp.3-11.
- 英語教育における英文学研究の意義 単著 平成13年7月 『関西大学教職課程研究センター年報』第15号、pp.79-86.
- マルチメディアを利用した外国語教育と情報ネットワークの展開 共著 平成16年3月 『関西大学外国語教育研究』第7号、関西大学外国語教育研究機構、pp.19-38.
- 談話分析に活かす英文学と英語学の視点 共著 平成17年12月 『日本英語コミュニケーション学会紀要』第14巻第1号、pp.1-11.
- 「日本の英文学研究」考 単著 平成25年10月 『外国語学部紀要』第9号、関西大学外国語学部、pp.95-116.
- 吉田健一と英文学 単著 平成28年3月 『外国語学部紀要』第14号、関西大学外国語学部、pp.47-65.

編 著 (9点)

- Towards Humanity 共編注 昭和60年12月 金星堂
- Common Misunderstandings in Japanese-American Communication 共編注 昭和62年12月 金星堂
- Constructive Living for Young People 共編著 昭和63年4月 朝日出版社
- The Edge 単編注 平成6年1月 南雲堂
- Global English with CNN International 共編著 平成9年4月 関西大学出版局発行、金星堂発売
- English for the Global Age with CNN International 共編著 平成12年4月 朝日出版社
- English for the Global Age with CNN International, Vol.2 共編著 平成13年4月 朝日出版社
- English for the Global Age with CNN International, Vol.13 共編著 平成24年1月 朝日出版社
- English for the Global Age with CNN International, Vol.14 共編著 平成25年1月 朝日出版社

書 評 (学会誌掲載分のみ、3点)

- 書評：ディケンズ著、伊藤廣里(訳)『炉辺のこおろぎ』(近代文芸社、2004) 単著 平成17年10月 『ディケンズ・フェロウシップ日本支部年報』第28号、pp.33-35.
- 書評：G.M. ヤング著、松村昌家・村岡健次(訳)『ある時代の肖像—ヴィクトリア朝イングランド』(ミネルヴァ書房、2006) 単著 平成19年11月 『ディケンズ・フェロウシップ日本支部年報』第30号、pp.76-79.
- 書評：山本史郎著『名作英文学を読み直す』(講談社、2011) 単著 平成23年12月 『ディ

ケンズ・フェロウシップ日本支部年報』第34号、pp.36-41.

主要学会発表（8点）

- Great Expectations* を読む 単 昭和57年10月 デイケンズ・フェロウシップ日本支部総会、パネリスト、成城大学
- 『大いなる遺産』論—主人公像の新解釈 単 昭和57年10月 日本英文学会中国四国支部第35回大会、島根大学
- Hard Times* に見る作家の人間観 単 昭和59年10月 日本英文学会中国四国支部第37回大会、広島大学
- 日本におけるデイケンズ—『クリスマス・キャロル』の翻訳本を通して見た場合— 単 昭和63年11月 日本比較文学会西日本大会、徳島大学
- 関西大学総合情報学部における英語教育—Needs Analysis と教材開発— 共 平成9年7月 語学ラボラトリー学会第37回全国研究大会、立命館大学
- コミュニケーションと文学 単 平成14年10月 日本英語コミュニケーション学会第11回年次大会、専修大学
- 談話分析に活かす英文学と英語学の視点 共 平成16年10月 日本英語コミュニケーション学会第13回年次大会、早稲田大学
- 学士力として求められる英語コミュニケーション力とは何か—英米文学・英米文化の側面から 単 平成21年10月 日本英語コミュニケーション学会第18回年次大会、パネリスト、関西大学

講演（公的機関の主要なものに限定、8点）

- 高校英語入試の傾向と対策 単 平成7年8月 ABC（朝日放送）教育センター
- トマス・ハーディの面白さ—チャールズ・デイケンズと比較して 単 平成10年6月 朝日カルチャーセンター大阪・中之島教室
- ブロンテ姉妹はわれらが救世主たりうるか 単 平成13年5月 日本ブロンテ協会2001年度ブロンテ公開講座、近畿大学
- 「文学研究」よ、自立せよ！—ブロンテ姉妹に学ぶ 単 平成18年3月 日本ブロンテ協会関西支部2006年度春季大会、同志社大学
- 実践知性としてのブロンテ文学 単 平成21年6月 日本ブロンテ協会2009年度ブロンテ公開講座、大同大学
- 言葉とコミュニケーション力 単 平成21年10月 第38回生涯学習吹田市民大学関西大学講座、関西大学
- 実践知性としての英文学 単 平成25年10月 日本英文学会中部支部第65回大会、椋山女学

園大学

考動する英文学者を追って一言語・文化・教育の諸相 単 平成28年3月 関西大学英語学会
第41回例会、関西大学

雑誌記事(公的刊行誌に掲載した行政関係のものに限定、1点)

「外国語のプロフェッショナル」の育成を目指して 単著 平成21年7月 社団法人日本私立
大学連盟『大学時報』No.327、2009年7月号、pp.106-109.

研究報告(学会誌掲載の主要なものに限定、22点)

テーマを追って読む・書く・生きる 単著 昭和54年10月 『ディケンズ・フェロウシップ会
報』第2号、ディケンズ・フェロウシップ日本支部、pp.16-17.

ナンシーは何故 単著 昭和55年10月 『ディケンズ・フェロウシップ会報』第3号、ディケ
ンズ・フェロウシップ日本支部、pp.11-12.

研究姿勢動向 単著 昭和56年10月 『ディケンズ・フェロウシップ会報』第4号、ディケン
ズ・フェロウシップ日本支部、pp.13-14.

エステラ像 単著 昭和57年10月 『ディケンズ・フェロウシップ会報』第5号、ディケン
ズ・フェロウシップ日本支部、pp.15-16.

エステラ像をめぐって 単著 昭和58年11月 『ディケンズ・フェロウシップ会報』第6号、
ディケンズ・フェロウシップ日本支部、pp.6-7.

女性読者とディケンズ 単著 昭和59年10月 『ディケンズ・フェロウシップ会報』第7号、
ディケンズ・フェロウシップ日本支部、pp.7-8.

読み手の「思い」 単著 昭和60年10月 『ディケンズ・フェロウシップ会報』第8号、ディ
ケンズ・フェロウシップ日本支部、pp.7-8.

ディケンズ愛好家たち 単著 昭和61年10月 『ディケンズ・フェロウシップ会報』第9号、
ディケンズ・フェロウシップ日本支部、pp.4-5.

『背教者ユリアヌス』を読んで 単著 昭和63年10月 『ディケンズ・フェロウシップ会報』
第11号、ディケンズ・フェロウシップ日本支部、pp.3-4.

ディケンズと読者 単著 平成1年10月 『ディケンズ・フェロウシップ会報』第12号、ディ
ケンズ・フェロウシップ日本支部、p.12.

『いわひ歌』の謎 単著 平成2年10月 『ディケンズ・フェロウシップ会報』第13号、ディ
ケンズ・フェロウシップ日本支部、pp.4-5.

中島孤島と『クリスマス・キャロル』 単著 平成9年10月 『ディケンズ・フェロウシップ会
報』第20号、ディケンズ・フェロウシップ日本支部、pp.5-6.

ハーディとディケンズ 単著 平成10年10月 『ディケンズ・フェロウシップ会報』第21号、

ディケンズ・フェロウシップ日本支部、pp.5-6.

21世紀の『嵐が丘』 単著 平成11年1月 『ブロンテ・ニューズレター』第42号、日本ブロンテ協会、p.1. (巻頭エッセイ)

ブロンテ姉妹はわれらが救世主たりうるか 単著 平成13年10月 『ブロンテ・スタディーズ』第3巻第5号、日本ブロンテ協会、p.70.

『文学研究』よ、自立せよ！—ブロンテ姉妹に学ぶ 単著 平成18年12月 『日本ブロンテ協会関西支部ニューズレター』第6号、p.5.

英語時評：英文学研究と言語意識 単著 平成19年12月 『日本英語コミュニケーション学会紀要』第16巻第1号、pp.122-124.

活路を開く 単著 平成22年2月 『日本ブロンテ協会関西支部ニューズレター』第9号、p.1. (巻頭エッセイ)

言葉とコミュニケーション力 単著 平成22年12月 『日本英語コミュニケーション学会紀要』第19巻第1号、pp.147-148.

英語時評：英文解釈：『大いなる遺産』第2章 単著 平成27年12月 『日本英語コミュニケーション学会紀要』第24巻第1号、pp.65-70.

英語時評：英文学とコミュニケーション 単著 平成29年12月 『日本英語コミュニケーション学会紀要』第26巻第1号、pp.83-92.

現代日本とブロンテ学 単著 令和元年11月 『ブロンテ・ニューズレター』第99号、日本ブロンテ協会、p.1. (巻頭エッセイ)

その他（文学に関する主要季刊誌に掲載したものに限定、4点）

竹本政太夫に魅せられて 単著 昭和54年12月 『近代風土』第7号、近畿大学出版部、pp.81-83.

ある読書体験—事実の重みをめぐって 単著 昭和55年4月 『近代風土』第8号、近畿大学出版部、pp.90-93.

『本覚坊遺文』読後感 単著 昭和57年11月 『近代風土』第16号、近畿大学出版部、pp.105-108.

小説と読者 単著 昭和63年10月 『香散見草』第10号、近畿大学中央図書館、pp.1-3. (巻頭言)

(付記) 関西大学の機関誌である『関西大学通信』、『葦』、『関大』等に掲載した拙文は、すべて省略した。

